

esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM 福岡市美術館

esplanade [エスプラナード]
SPRING 2026 | NO.223





志野あやめ絵鉢（しの　えばち）

桃山時代 16 ～ 17 世紀／施釉陶器
高さ 8.3cm　最大径 26.1 ㎝／松永コレクション

志野は、岐阜県南部で生産される美濃焼（みのやき）の一種。なかでも、筆描きの鉄絵で下絵を施し、長石を主成分とした白釉を掛けて焼成した「絵志野」が最もよく知られています。本作はその逸品で、昭和を代表する茶人の一人、松永耳庵［安左エ門］が晩年期に蒐集したものです。

腰にゆるやかな段をもうけ、口縁を内に丸く折り返し、三方よりおだやかなゆがみを加えています。底の三方には平紐状に作った脚をつけています。本作をまれに見る志野の優品としているのは、見込みに描かれたアヤメの絵画性豊かな魅力と、それを引き立てる焼き上がりの素晴らしさにあるといえます。水辺に咲くアヤメを柔らかく、迷いなく、流れるような筆線で見事に描き上げています。清らかに発色した素地と長石釉の乳白色が生き生きとしたアヤメの姿を引き立て、まさしく初夏に潤う水辺の風情が横溢しています。

一方で周囲をめぐる山水らしき絵柄は対照的に、観念的で荒々しく描かれています。この対比が意図されたものか否かは不明ですが、モノクロームの絵付けの魅力に一段と深みを与えています。風変りな深鉢の器形もあいまって、見るほどに味わい深い本作の魅力に結実しています。

※本作はコレクション展「百花競妍」（古美術企画展示室、5月24日まで開催）で展示中です。

――学芸課長　後藤恒

所蔵品紹介

清らかな釉薬の池に、咲き誇るアヤメ

esplanade
［エスプラナード］
SPRING 2026 ｜ NO.223

contents

02　アートの処方箋
03　所蔵品紹介
04　Tune in! アートラジオ
06　最近、こんな本を読みました。
08　ただいま建築部活動中!
09　福岡市美術館とわたし
10　美術館スケジュール（4～6月）

アートの処方箋

汲めども尽きず湧いてくる、日々のちょっとした悩みごと。その悩み、ドクトル後藤に相談してみよう。



お悩み

新しい趣味を始めるたびに、三日坊主で終わってしまいます。飽き性の私はどうしたらいいですか？

飽きやすく好きやすいAさん（30代）



ドクトル後藤
［ 後藤亘 学芸課長 ］

三日坊主でもいいじゃないですか、仕事じゃあるまいし。飽きたら次、風の向くまま気の向くまま、興味をもったことにどんどんトライしてください。え？「継続できない自分が情けなくて…」ですと？なるほど、あなたは何事にも努めて続けることでさらなる高みを目指すことに価値を求めるため、ささやかな趣味であっても飽きたとたんに負い目を感じてしまう「継続は力なり症候群」です。いや、それは基本的に立派なことで頭が下がります、はい。なので、持ち前の向上心を心地よく活性化させる効能のあるアートを処方しておきましょうか。

美濃（織部・志野）※や唐津、海外ならタイのシーサッチャナーライ窯の古陶の優品です。それに描かれた鉄絵の筆線をじっくり眼で追ってみてください。素早く、迷いなく、流れるような絵付け職人の筆さばきを。それは量産される無数の器を幾年月も筆一本で飾り続けてたどりついた境地。柳宗悦の言葉を借りれば「あの雑器と呼ばれる器の背後には、長き年月と多くの汗と、限りなき繰返しとがもたらす技術の完成があり、自由の獲得がある。」（『民藝四十年』）お大事になさってください。

※所蔵品紹介（3ページ）をご参照ください。

みなさんこんにちは。「アートラジオ」の時間です。本コーナーでは、DJコブウシが、毎回ゲストとともに福岡市美術館で見られる展覧会や作品について語り合います。それではさっそく、本日のゲスト、忠あゆみさんにご登場いただきましょう。

Tune in! アートラジオ



パーソナリティ
DJ コブウシ
美術に興味津々のラジオパーソナリティ

ゲスト
忠あゆみ
学芸員 近現代美術係

EPISODE 1

幻の名作がやってくる！

天才現る！

DJコブウシ：近年は近代絵画でも、様々な視点で切り口をつけた展覧会が増えているように思いますが、今回の「小磯良平展」はストレートにクラシックな展覧会という印象です。まずは簡単に小磯良平のことを教えて下さい。

忠：大正から昭和にかけて活躍した代表的な近代洋画家です。神戸の名家に生まれ、東京美術学校（今の東京藝術大学）を首席で卒業。近代絵画の若手ホープとなった人物です。当時はキュビズムなどの最新の手法を取り入れた作家も多くいましたが、小磯は古典的な手法を追求し、大学生で第七回帝国美術院展覧会（帝展）の特選を獲得し、「天才現る！」と大評判になりました。

DJコブウシ：身も蓋もありませんが、本当に上手ですね。見ていてほれぼれしちゃいます。

忠：いい絵ですよね。しっかりと形を取る造形力も卓越していますし、もっちりつややかな質感の表現も見事です。彼はフランス留学経験もあり、西洋の技術をうまく吸収して自分の血肉にしています。多くの女性の絵を描いていますが、多くが洋装で和装は5％くらいと言われています。

「幻の作品」90年ぶりの帰還

DJコブウシ：今回の展覧会の目玉作品《日本髪の娘》は、まさに和装の作品です。なぜ幻の作品と言われているのですか？しかも韓国から90年ぶりに日本にやってくるとか。

忠：それを理解するには、この絵が描かれた1935年の日本の美術界を取り巻く状況を説明する必要があります。さきほどお話した小磯が特選をとった帝展は日本最大規模の美術展覧会と言われていましたが、この年、文部省が美術の国家統制の強化を図ろうとしました。これに反発した小磯良平ら一部の作家たちは、「第二部会」という在野の団体を結成し、展覧会を実施します。その展覧会に出品されたのが、この《日本髪の娘》です。

DJコブウシ：当時の反骨精神の象徴でもあったわけですね。

忠：この展覧会ののちに本作品が海をわたり、李王家美術館が購入したことまではわかっていました。しかし、戦後の政治的・感情的な背景もあり、長く韓国国立中央博物館（李王家美術館の後身）に保管され、日本側では所在が不明になっていたのです。

DJコブウシ：それが2008年にようやく再確認されたと。

忠：韓国側から連絡があり、小磯記念美術館の関係者も「あの作品が実在したのか」と驚いたそうです。今回の展示は90年という時を経てようやく日本の観客の前に姿を現す、貴重な機会となります。


小磯良平《日本髪の娘》1935年 韓国国立中央博物館

モダンなファッション感覚

DJコブウシ：《日本髪の娘》からは、単なる和装の美人画ではない、不思議な強さを感じますね。

忠：そうなんです。この作品の見どころは、和装でありながら同時にとてもモダンである点だと思います。

この女性の着物は、実際の着物をもとに描かれました。当時、百貨店の高島屋は毎シーズンの流行の柄を発表していて、小磯はこの「流線美式天象」という柄を見て、すぐに大阪の高島屋に足を運び、高価だったにも関わらず購入したそうです。モードな着物にすごく惹かれたんでしょうね。それを、小磯に絵を学んでいた女性をモデルにして、この絵を描きました。

DJコブウシ：表情もキリリとしていて、着物もビビッドで、なんだかかっこいい。

忠：小磯の描く女性からは、自立した女性像を感じるものも多いです。実は最初にこの絵を見たときは、ちょっと地味だなと思いましたが、見れば見るほど媚びない凛とした美しさを感じてきて、いい絵だなと思うようになりました。

DJコブウシ：小磯良平が、ファッション好きなのも伝わりますね。他の作品でも女性が着ているものを見ても楽しい。小磯がファッション誌の表紙を描いていたというのも頷けます。

忠：今回は王道のクラシックな洋画を見られる展覧会です。予備知識がなくても楽しめる、眼福と言えるような作品が並びます。さらに当時のファッションや映画などの文化に興味がある方も楽しんでいただけそうです。

DJコブウシ：小磯良平ファンだけでなく、多くの方に楽しんでほしいですね！

Info

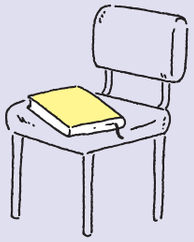
特別展 「小磯良平展―幻の名作《日本髪の娘》」

会期：4月18日（土）～6月21日（日）　会場：2階 特別展示室
観覧料：一般1,700円（1,600円）、高大生1,100円（1,000円）、中学生以下無料
※（　）は前売り、20名以上の団体料金

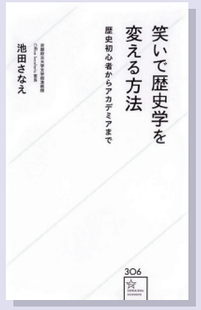
Recent Reads

最近、こんな本を読みました。

ふだん学芸員が考えていることが、垣間見えるかも。
学芸員おすすめの本を紹介します。



紹介する人
宮田太樹
学芸員 古美術係



『笑いで歴史学を
変える方法』
池田さなえ
星海社新書

分からないことこそ面白い

学芸員という仕事をしていると、「展示内容が難しくて分かりづらい」とお叱りをうけることがあります。本書の著者である池田さなえさんは歴史学を専門とする大学の先生ですが、似たような悩みを持っているようで、これを解決する手段として「笑い」を用いることを提案します。ただし、ここでいう笑いとはいわゆるエンタメ的な笑いではなく、「それは意味があるのか？」というトリビア的な笑いだそうです。表面的な面白さに傾かず、分からないことと真摯に向き合う姿勢の大切さをこの本から教わりました。

とにかく絵が美味い！

寿司屋に次々と訪れるちょっと変わったお客に、大将が精いっぱいおもてなしをするという内容。職場の同僚から頂いた絵本なのですが、とにかく美味しそうな絵がたっぷりと描かれています。作中のちらしずしは私もご相伴にあずかりたいほどです。おかげさまで子どもがお寿司大好きっ子（回転ずし限定）になりました。我が家のエンゲル係数的には痛い影響ですが、そこまで美味しそうと思わせる作家さんの腕前に感服です。ごちそうさまでした。

紹介する人
渡抜由季
学芸員 近現代美術係



『みんなのおすし』
はらぺこめがね
ポプラ社



『ミュージアムの女』
宇佐江みつこ
双葉社アクションコミックス

紹介する人 篠崎未来 教育普及専門員 教育普及係

美術館の裏側ちょっとのぞいてみませんか？

展示室で黒っぽい服を着て静かに座っている人たち。美術館の学芸員だと思っている方も少なくない（かもしれない）監視員さんの日常を、ユーモアいっぱいに描いたマンガ作品です。以前勤めていた美術館でボランティアさんに監視業務をお願いする機会がありました。美術館ユーザーとしてはプロだけれど、監視業務はよくわからないというボランティアさんに、楽しんで監視のお仕事を知ってもらった思い出の一冊です。
美術館を訪れる様々な人たちとの交流や、展示室での業務。実は奥が深い監視員の世界をのぞいてみませんか？



『なぜ人は締め切りを
守れないのか』
難波優輝
堀之内出版

紹介する人 忠あゆみ 学芸員 近現代美術係

時計を毎日気にしている私の処方箋

美術館職員は往々にして、時間に追われるもの。展覧会やイベントの開幕に向けてチラシや図録の原稿、解説など、無数の締め切りがあるからです。あのメールの返信まだだっけ？子供のお迎えまであと何分？ああ、もう時間ない…。でも内心はこうも思っています。本来、芸術を生み出すことに締め切りなどないはず。もしも時間を気にせずどっしり構えられたら、もっとよい仕事ができるのかもしれない……。在野の哲学者による本書は、「時間とはなにか？」という前提から解きほぐし、こんな自分の悩みをちょっと軽くしてくれました。

紹介する人
岩永悦子
館長



『戦争と芸術の「境界」で
語りをひらく
有田・大村・朝鮮と脱植民地化』
山口佑香
チョン・ユギョン
花束書房

有田焼と戦争―人々が紡ぐ朝鮮と日本の歴史

当館の所蔵作家であるチョン・ユギョンと九州大学韓国研究センターの山口佑香の共著。今も入国管理センターがある長崎県大村と、有田焼で有名な佐賀県有田町は、ともに朝鮮半島から日本に連れてこられた人々の歴史を語るのに欠かせない場です。その二つを結びつけた、チョンの《大村焼》プロジェクトを軸に、二人が語り、かつ対話します。それぞれの家族を含む個人の歴史はとても興味深く、有田焼や明太子といった身近なものが、これまでとは異なった色彩を帯びて見えてきます。現代美術ファンはもちろん、焼物ファンにもぜひ読んでいただきたい一書です。

『傷つきやすい若者』が教えてくれること

2013年から2017年にかけてアメリカの大学で起こった驚くべき若者たちの行動。多くのキャンパスで広がる「安心感」という新しい文化が、その事象発生の鍵とされます。不安感が強く傷つきやすいが、保障された安全が裏切られると反動で現れる攻撃性。本書には、若者の行動分析だけではなく、その背景や助言も収録されています。
アメリカで起きたことは10年すると日本にやってくるとよく言われます。対岸の火事とは言えないかもしれません。特に、第９章で語られる幼少期の「自由遊び」の重要性は、美術館の教育活動ともつながる話題で興味深いものでした。

紹介する人
嶋田明香
学芸員 教育普及係



『傷つきやすい
アメリカの大学生たち
大学と若者をダメにする
「善意」と「誤った信念」の正体』
グレッグ・ルキアノフ、
ジョナサン・ハイト著
西川由紀子訳
草思社

ただいま建築部活動中！

福岡市美術館には、開館当初からボランティア活動があり、所蔵品を紹介するツアーや美術資料の整理などを行ってきました。そのボランティア活動の外側に、最近新たな“部活動”が生まれているようです。



話した人　朝倉拓郎さん（ボランティア）　﨑田明香（教育普及担当学芸員）

好きから始まる建築部

﨑田　ボランティアさんたちの中に、建築愛にあふれた方がいるけれどお互いに気づいていないので、みんなで話したいなと思っていました。すると朝倉さんが「建築部を立ち上げたい」と言ってくださって。

朝倉　もともと私は、福岡市美術館のリニューアル後の居心地のよさに惚れ込んで、ボランティアになりました。他にもこの建物に愛着がある人たちがいると知って、交流の場になればいいなと思って声を上げました。

　福岡市美術館の建築をいろいろな角度から愛でようというのが基本趣旨です。活動は月に一度ほど、お茶を飲みながら自慢の写真を見せ合ったり、館内を歩いて気づいたことを共有したりと、いわゆる勉強会とは少し違うゆるやかな集まりです。建築の専門家はいませんが、その分、見方や感じ方は本当に様々で、毎回新しい発見があります。

﨑田　専門家がいないので、「教えを請う」のではなく、「みんなで好きなことを話す」時間に自然となっていますよね。

　２０２５年のファミリーデーでは、市美の設計を手掛けた前川國男※の生誕１２０周年にちなんで、「たてものクイズ」を作成しました。

朝倉　当日は、建築部が活動をサポートしました。前川建築らしいタイルや手すりの質感に注目した問題を、親子で一生懸命解いてくださったのがうれしかったですね。

未完の建築

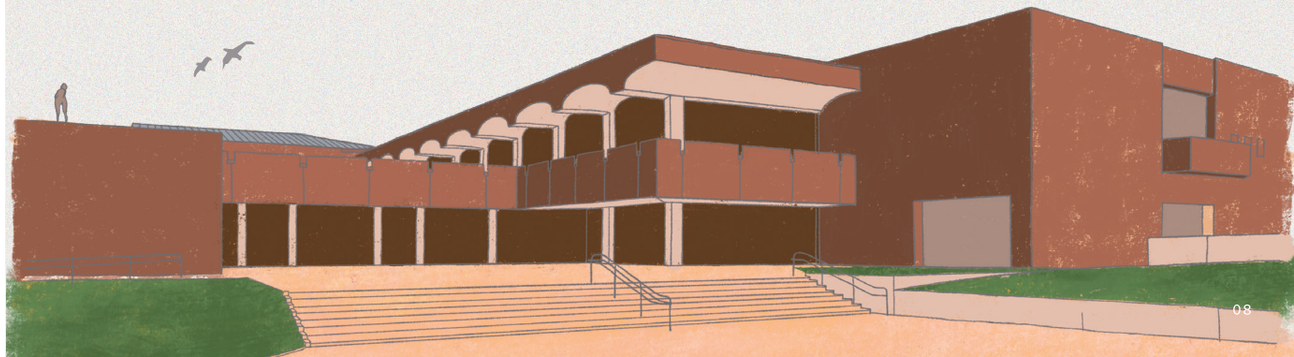
朝倉　私は、建築部のメンバーが自分たちでやりたいことを見つけていくところがいいなぁと思っています。他の美術館を訪ねて報告を送ってくれる人がいたり、街の中で美術館に似たタイルを見つけて共有したり。みんな思い思いに活動を広げています。

﨑田　私も、普段のボランティア活動とは違った関わり方ができて新鮮です。主体をボランティアさんたちにお渡ししたら、これまでとは違った美術館との関わり方が生まれるんじゃないかと思っています。

朝倉　前川さんの言葉に「未完の建築」というものがあります。「建物は作って終わりではなく、使う人や運営する人が育てていくことによって、完成していく」というもので、これは素敵な考え方だなと思います。市美はもうすぐ建って50年。建築部の活動が、市美の建物をよりよい場所に「育てていく」ことにつながればいいですね。

※前川國男…日本を代表するモダニズム建築の巨匠。多くの公共建築の設計を手がけた。

福岡ミュージアムウィーク2026 期間中［5月16日（土）～24日（日）］の5月24日（日）13時～建築部による「建築見どころめぐり」も実施予定です。※詳細は当館ホームページでご確認ください。



［寄稿］

福岡市美術館　と　わたし

エスプラナード創刊の日々

北九州市立美術館館長
後小路雅弘

　福岡市美術館の開館時、わたしは最年少の学芸員として勤務していました。経験の浅い、未熟で浅学な若者でした。当然、職場でも軽い仕事しかできず、重要な仕事は先輩たちがこなしていました。学芸員としてこの先やっていけるのか不安な毎日でした。そんなとき新たに福岡市美術館ニュースが発行されることが決まり、わたしはその担当に加わり、張り切りました。タイトルは公募で『エスプラナード』と決まりました。当時『ブルータス』が発刊され、わたしはこの当世風のいわゆる“カタログ雑誌”にあこがれて、勝手に『ブルータス』を仮想敵として編集作業に励んだものです。あまりに熱を入れ過ぎ、先輩学芸員からは「もっとほかに注力すべき仕事があるだろ」とあきれられました。半分がカラーページだったからか、市民から「豪華すぎる」というお叱りを受けたことには今昔の感があります。

　当時、駆け出しのわたしは、職場でなんとか認められたいという思いを抱え悩んでいました。実力がなく特別優れたこともないわたしでしたが、学生時代に文章をほめられたことがあり、文章に対するわずかな自負が支えでした。そこでわたしは本誌に掲載する文章には、かなりの熱量で取り組みました。とくに読者の目を惹くよう導入の文章に凝りました。幸い、次第に周囲の評価を得るようになりました。学芸員にはさまざまな仕事があり、わたしは生来不器用な質で、学芸員として一人前になるまでには、ずいぶん時間がかかりました。

　本誌『エスプラナード』は、市民向けの広報が目的です。一方で、学芸員としては、広報を学ぶ場であり、文章修行の場であり、広く学芸員の仕事を学ぶ場でもあります。初期の『エスプラナード』は、仕事に自信が持てず、不安だった若き日々のわたしを見守り、育て、少しだけ自信をくれた場であり、揺籃の地、あたたかな“ゆりかご”でした。二二三号の発行を重ね、本誌の創刊にかかわった若き学芸員の思いも、今では、私事とはいえ歴史の一コマとなりました。

　その後、学芸員としてのキャリアを積んだわたしは、二十年後、学芸課長として福岡アジア美術館の開設に挑むことになります。『あじびニュース』を創刊する際の、今度の仮想敵は『エスプラナード』でした。まったく反対方向の誌面づくりで本誌を越えることを目指しましたが、それはまた別の話になりますね。



昭和56年（1981年）3月25日発行の創刊号表紙

美術館スケジュール　●休館日



LECTURE

つきなみ講座

APRIL-JUNE 2026



毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順（30分前開場）※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

4月 作品保存担当学芸員による シンガポールの美術館レポート

国立アートリサーチセンター主催のスタディ・ツアーで2026年1月にシンガポールの美術館等を巡りました。ここで見聞きしたことについて、作品保存の観点から学芸員が報告します。

日時：4月18日（土）15:00〜16:00
会場：レクチャールーム（定員54名）
講師：渡抜由季（学芸員・近現代美術係）



ナショナル・ギャラリー・シンガポールの外観

5月 福岡ミュージアムウィーク2026スペシャル 美術と言語と現実—世界認識の原理—

昨年は美術と言語の関係を人工知能も含めて考察しましたが、今回はその発展形。美術だとか言語だとか、いろんな世界認識の根源にある「現実」とはなにか。より突っ込んで考えてみます。

日時：5月23日（土）14:00〜15:30
会場：ミュージアムホール（定員180名）
講師：中山喜一朗（総館長）



ラスコー洞窟（フランス）の壁画《馬》

6月 薬師如来だけじゃない！ 東光院仏教美術の研究最前線

当館に収蔵されている東光院の仏教美術といえば薬師如来や十二神将が有名ですが、今回はそれ以外の仏像や仏画について、最新の研究成果も踏まえて紹介します。

日時：6月20日（土）15:00〜16:00
会場：レクチャールーム（定員54名）
講師：宮田太樹（学芸員・古美術係）



重要文化財《阿弥陀如来立像》
鎌倉時代 13世紀
東光院仏教美術資料

※展覧会およびイベントに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

ギャラリー A-F 2階

3月31日（火）〜4月5日（日）
- アクリル画とメタルアート（ギャラリーA）
- 九大福大福工大合同写真展（ギャラリーBCD）
- 子どもデジタル・デザインコンテスト入賞作品展（ギャラリーE）
- 時の色（ギャラリーF）

4月7日（火）〜4月12日（日）
- 第31回福岡市書道協会展（ギャラリーABCDF）
- ふくおか絵画同好会2026（ギャラリーE）

4月14日（火）〜4月19日（日）
- 第32回アジア美術家連盟日本委員会展（ギャラリーABCDE）
- 第一回美奈宜の杜の作家たち展（ギャラリーF）

4月21日（火）〜4月26日（日）
- アトリエムナカタグループ展（ギャラリーA）
- 第38回蘭亭書道展（ギャラリーBCDEF）

4月28日（火）〜5月6日（水）
- 栗山あや子展（ギャラリーA）
- 星空写真展「星の声」（ギャラリーB）
- 「書のときめき展 '26」一墨会&井上一光（ギャラリーCD）
- 大島睦 葦ペン画・スケッチ展（ギャラリーE）
- セルゲイ草柳 写真展（ギャラリーF）

5月12日（火）〜5月17日（日）
- 九州産業大学芸術学部・大学院芸術研究科作品展「九芸展2026」（ギャラリーABCD）
- わくわくどうぶつのイラスト展（ギャラリーE）
- 自由課題 たなけん展 Vol.10（ギャラリーF）

5月19日（火）〜5月24日（日）
- 第79回 示現会展 福岡展（ギャラリーABCDEF）

5月26日（火）〜5月31日（日）
- 第27回木曜会写真展（ギャラリーA）
- ARS写真クラブ作品展「雑記帳」〜それぞれの視線で〜（ギャラリーBC）
- 写友会弥生 写真展（ギャラリーD）
- 清水恒治 写真展（ギャラリーE）
- デザインのしくみ ー情報の視覚化ー（ギャラリーF）

6月2日（火）〜6月7日（日）
- 第121回 太平洋展　第60回記念 太平洋西日本展（ギャラリーABCDEF）

6月9日（火）〜6月14日（日）
- 九州産業大学芸術学部 写真・映像メディア学科 進藤ゼミナール写真展（ギャラリーA）
- 「曹亜鋼 水墨芸術学院」35周年記念展（ギャラリーBC）
- 第7回 ひとつぶの空 キルンワークガラス教室作品展（ギャラリーD）
- わくわく曼荼羅アート展（ギャラリーE）
- 裕竹会かな書展（ギャラリーF）

6月16日（火）〜6月21日（日）
- Afteglow　記憶の光　PANITA AOKI　水彩画展（ギャラリーA）
- 書奏会『初夏の彩り展』（ギャラリーBC）
- 洋画会エルサバド（ギャラリーD）
- 第4回井上郁子展（ギャラリーE）
- <生命体シリーズ> 滝口文吾作品展（ギャラリーF）

6月23日（火）〜6月28日（日）
- 85周年記念創元展 福岡巡回展（ギャラリーABCDEF）

福岡市美術館ミュージアムイベント協力企業・団体

GRANDE MAISON SEKISUI HOUSE
大王製紙株式会社
QTnet
一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。 福岡銀行
NX NIPPON EXPRESS
ウエスト
人につくす、街につくす。 セイワ世研
AZUSA SEKKEI
九州電力 ずっと先まで、明るくしたい。
草苑

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに！もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（http://www.ffac.or.jp/wa/）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

RESTAURANT & CAFE レストラン・カフェ

＼お花見気分の春メニューはいかが？／



［レストラン］
お花見ご膳
3,960円（税込）



［カフェ］
ストロベリースムージー
ホットジンジャーレモンティー
各990円（税込）

販売期間：3月17日（火）～4月12日（日）

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト
www.fukuoka-art-museum.jp

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6　TEL：092-714-6051（代表）　FAX：092-714-6071
【開館時間】 9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00） ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日 ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日）

esplanade SPRING 2026 | NO.223

福岡市美術館　季刊誌エスプラナード223号　発行日：2026年4月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ
【発行】福岡市美術館（〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 https://www.fukuoka-art-museum.jp）